

# 地球通信

学校法人 国際ことば学院  
国際ことば学院日本語学校  
〒422-8076 静岡市 駿河区 八幡 3 丁目 2-28  
TEL: 054-284-8383 / FAX: 054-284-8338  
www.kotoba.ac.jp ✉ info@kotoba.ac.jp



## 輝かしい新春を迎えて

平成 30 年、新体制へ向けて始動

学校法人 国際ことば学院 理事長 末續 農一郎

みなさま、新年あけましておめでとうございます

新年早々、私は山登りをしていて、道路上にひっくり返り、顔面をコンクリートの道路に打ち付け、右顔面の半分に傷を負ってしまいました。幸い傷が浅かったせいか、大事には至らず、元気に仕事を続けています。

さて、最近、定年延長の意見が社会のあちこちから出てきて、70 歳まで延長するとの意見が出ていますが、私もすでに 76 歳となり、こうした定年延長案をはるかに超える年齢に達しており、そろそろ私も退職の時を迎えているなど考え、昨年、新体制の計画を練っていたところでした。

本年 4 月 1 日からは、新たな体制で動き出すこととなります。国際ことば学院外国語専門学校の袴田靖子校長を副理事長兼任とし、年内に引継ぎを行っていただくことで合意しました。

私同様、何卒ご支援ご指導賜りますようお願い申し上げます。

## 日本語学校の国の基準に適合

### 国際ことば学院日本語学校が留学告示に掲載

法務省省令「出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令の留学の在留資格に係る基準の規定に基づき日本語教育機関等を定める件」(留学告示)において、平成 30 年 1 月 18 日付の官報に本校が「別表 1-1」として掲載されました。

このことは、本校が平成 29 年 8 月から施行された「日本語教育機関の告示基準」に適合しており、在留資格「留学」が付与される留学生を受け入れることが可能な日本国内の日本語教育機関として正式に認められたということになります。社会的にも注目されつつある日本語学校の運営には、継続的かつ適切に行われるよう、一層努力が求められています。



## イヨッ! 待ってました!!



### 静岡まつり「白波五人男」に出演

3 月 30 日から 4 月 1 日にかけて行われる静岡市の春の恒例行事、「静岡まつり」に、国際ことば学院日本語学校の留学生たちも参加します。駿府城公園内のステージで行われる外国人歌舞伎(演目「白波五人男」、1 日・日)に参加します。2 月からは校内での練習が開始。当日お誘いあわせの上、ステージをごらんください(“おひねり”も投げて!!)。

# すし職人に、自動車整備士、進路は多様化

## 日本語学校留学生の進学状況 「職業」を意識

国際ことば学院日本語学校の卒業予定者の約8割が年末までに進路が決定していることが進路指導担当による調査で分かりました。1月15日現在で87名の進路がすでに決まっており、そのうち8割が専門学校に進学します。ビジネスを学ぶ学校が人気ですが、ここ数年人気が高まっているのが自動車整備の専門学校です。また、観光関連業への就職を目指す専門学校や、すし職人をを目指す専門学校への進学を希望する留学生もいます。一方で年々減少傾向にあるのが大学院や学部志望者です。留学生の来日目的は、じっくりと学問を身につけることというよりも、就職がイメージできる専門学校をめざそうとする傾向が強まっていると言えます。多様化する学生のために、日本語学校は満足度の高い授業カリキュラムを実施できるよう工夫が求められています。

## 静岡県地震防災センターを見学

### 中級レベルの校外学習、留学生が防災に理解を深める



1月16日、静岡県地震防災センター(静岡市葵区駒形)を当校留学生(Jクラス・1年)が見学のため訪問しました。当校の中級の日本語教科書には阪神淡路大震災についての読み物があり、授業でその内容に触れた後、クラス単位で地震防災センターへ見学に行くことがあります。実際に地震を体験したことがない、地震の対策や被害について具体的に知識がない学生にとっては格好の学習の場となっています。今回の見学後、留学生に感想文を書いてもらいましたのでここに一部を紹介します。

「地震の怖さがよくわかった。私の国はあまり地震が起こりません。地震が起きたらどうするかよくわからなかったが、ここに来てわかった」(ミャンマー)

「地震とか津波について新しい知識を積むことができた」(ベトナム)

「津波の恐ろしさが“頭”だけでなく“心”にも届いた」(インドネシア)

「一週間分の食品を準備しておきます。家の近くの避難場所を確認しよう」(中国)

■地震は避けられません。留学生たちに防災に対する関心を持たせる工夫を心がけたいものです。

### 学事予定表

1月下旬	日本語能力試験合否結果発表
2月1日	藤枝市立高洲小学校交流授業
3月1日	校内一斉実力テスト
3月13日	卒業式(グランシップ)
3月20日	冬学期 授業終了
3月21日	学生春休み



## 「私と日本語学校」 (3)

日下 雅子 (国際ことば学院日本語学校 事務員)

「日本語学校ってどんなところだろう」という好奇心が、ことば学院との発端だった。県立病院先の麻機街道をひたすら走ると、ようやくその学校にたどり着いた。静岡に長年住む私がびっくりするほど遠くに、町が開けていた。

遥々日本にやってきた留学生たちも、この静岡のはるか北に位置する学校に最初は戸惑ったであろうが、麻機に住み心地良さを発見し、この地に生活圏を築いて、たくましく暮らし始めた。学校と理事長宅が一体化していた建物は、じわじわと住居が学校に侵食され、時には台所が集会所になったりした。しかし文字通りにアットホームな学校で、学生の顔、性格や考え方が実によく見えていた。学生は素朴で、寄付の品を頼りにつましく暮らしていた。一方で、大きな夢を実現するべく勉学とバイトに励んでいた。

八幡に移り、校舎は立派になり、学生数も増えた。学生は多くの情報を携えてやってくる。生活もバイトも町中に移った。母国の経済が著しく発展し、授業料の滞納もなくなり、一時帰国や父母の来日も当たり前になった。麻機のころと比べ隔世の感がある。日本の若者も随分と様変わりしているのだから、留学生は推して知るべしである。しかし時は流れても、日本に大きな期待をし、自分の将来の礎を築きたいという思いは、昔も今も同じであろう。

麻機の学校のことがやたらに懐かしいのは、年を取ったせいであろうが、人も社会もどんどん変わりゆくのは世の常である。しかしいつの時代でも、大きな志を抱いて日本へやって来る若者の出発点である日本語学校は、彼らの未来を左右する大事な役割を担っている。常に責任、忍耐と愛情をもって、彼らと接していかねばならないだろう。



写真:理事長宅のリビング。住居と学校が一体化。

## 学生の皆さんへ！ 慣れてきたころ気をつけよう！「交通事故」

2年生はもうすぐ卒業。1年生は、早く来た学生はそろそろ日本の生活にもなれて、自転車<sup>じてんしゃ</sup>で静岡の町をスイスイ、あちこち走り回っているのでしょう。しかし、その、慣れてきた時こそ注意したいのが交通事故。つい先日も交通事故を起こし、足の骨を折るけがを負った学生がいました。

交通事故は、何一つ、いいことはありません。自転車もルールを守ってください！！

### 《 Check 》 確認しよう

- ✓ 自転車の整備(ライト、ブレーキ、etc.)はOK? ライトをつけないとクルマから見えないよ。
- ✓ 歩いている人に気をつけて! 前方に「こども」、「お年寄り」がいたらブレーキを!
- ✓ けがをしたら、まずは救急車(119)・警察(110)をよぼう。まわりの人に手伝ってもらおう。

